



## オーラルフレイルと口腔機能低下症

### 老化により口腔機能の低下が進行する

#### 新病名となった口腔機能低下症

かつては、口腔機能の低下に対する明確な定義がありませんでした。そのようななかで、「オーラルフレイル」という考え方も登場し、臨床現場ではその対応に苦慮してきました。しかし、その間も高齢化は進み、2025年には団塊世代が後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、経験したことのない超高齢化社会に突入します。

高齢者の増加は、口腔機能が低下した国民の増加も意味します。そこで「口腔機能低下症」を疾病として定義して、医療対応しなければならない、という考えのもと、2018年4月に新たな病名として認められ、保険適用にもなりました。

#### 口腔機能低下症の概念図

社会性・生活の広がり低下

意欲低下・うつ

口腔リテラシー低下  
(口腔への関心度)

う蝕・歯周病  
歯の喪失

滑舌低下

わずかなむせ・食べこぼし

噛めない食品増加

口腔不潔  
(口腔衛生状態不良)

口腔乾燥

口腔機能  
低下症

咬合力低下

舌・口唇  
運動機能低下

低舌圧

咀嚼機能低下

嚥下機能低下

口腔の  
機能障害

接触嚥下障害

咀嚼機能不全



#### オーラルフレイルと口腔機能低下症

オーラルフレイルは、わずかなむせや食べこぼし、滑舌の低下といった口腔機能が低下した状態を示す、国民の啓発に用いられる用語（キャッチフレーズ）です。一方、口腔機能低下症は、検査結果を元に診断される疾患名です。したがって、オーラルフレイルと口腔機能低下症の状態は、当然ながらオーバーラップされる部分が多く、区別されるものでもありません。

オーラルフレイルの用語を使って、広く国民に口腔機能の重要性と口腔機能低下の早期発見の大切さを周知して、歯科医院で口腔機能低下症の検査を受けてもらうことが大切です。

